



# デバイス管理

- [デバイス管理 \(1 ページ\)](#)

## デバイス管理

IMM 移行ツール、リリース 1.0.2 以降を使用すると、UCS システムと Intersight デバイスをより適切に管理できます。各デバイスに一意のターゲット IP または FQDN を提供することで、デバイスの重複を避けることができます。

デバイスを追加および管理するには、次の手順を実行します。

1. [デバイス管理 (Device Management)] に移動します。
2. [デバイスの追加 (Add Device)] をクリックします。
3. ドロップダウン リストから [デバイスタイプ (Device Type)] を選択します。
4. ターゲット IP/FQDN を入力します
5. ステップ 3 で選択したデバイス タイプが **UCS Manager** または **UCS Central** の場合は、デバイスの **ユーザー名** を入力します。そうでない場合は、ステップ 7 に進みます。
6. デバイスの **パスワード** を入力し、ステップ 9 に進みます。
7. ステップ 3 で選択したデバイス タイプが **Intersight** の場合は：
  - (a) SaaS アカウントに [Intersight SaaS] を選択し、API キー/秘密キーを入力します。



(注) リリース 4.0.1 以降から、[Intersight SaaS] アカウントを選択する場合、以下に属するアカウントの地域も選択できます。米国または EU。

(b) アプライアンスアカウントに [Intersight Appliance VM] を選択し、ターゲット/API キー/秘密キーを入力します。

8. [プロキシを使用 (Use Proxy)] トグル ボタンをオンにして、プロキシ設定を有効にします。

プロキシ設定の詳細については、「[プロキシ設定](#)」を参照してください。

9. [保存 (Save) ]をクリックします。

IMM 移行ツール 3.1.1 以降では、ツールによって検証が実行され、追加されたデバイスのファームウェアバージョンが移行ツールでサポートされる最小バージョンに準拠しているかどうかチェックされます。準拠していないことが判明した場合、警告メッセージが表示されます。

**[検証のバイパス (Bypass Validation) ]** トグル ボタンをオンにすることで、検証チェックをオプトアウトできます。

追加されたデバイスは、削除または編集できます。Intersight デバイスで編集できる値は API キーとシークレット キーで、UCS デバイスで編集できる値はユーザー名とパスワードです。



- 
- (注)
- 既存のデバイスの削除は、それに関連付けられた遷移がない場合にのみ可能です。
  - IMM 移行ツール、3.1.1 で、複数のデバイスを選択し、リスト ビューの左上にあるゴミ箱 ボタンをクリックすると、選択したデバイスをまとめて削除できます。
-

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。